

巻頭言

2020年度公立大学協会図書館協議会（以下 公大図協）会長館として、加盟館の皆様、副会長館の会津大学の皆様に多大なご協力をいただきましたことに感謝し、お礼を申し上げます。今年度は、COVID-19の影響により、6月に富士山にほど近い会場で開催を予定していた第1回拡大役員会および総会の実施を見送らざるをえず、講演も中止となりました。その他、例年は対面で行われていた諸委員会の会議等も、多くはオンライン会議、電子メールによる審議に変更となりました。第1回拡大役員会は12月25日のWeb会議システムによるオンライン会議、総会は2021年1月28～2月3日のメールによる書面会議および2月12日～18日の追加書面決議、第2回拡大役員会は3月下旬のメール審議、追加のオンライン・ミーティングを経ての決議となりました。準備の関係からいずれも遅い時期の開催となってしまう、また、会議の開催方法、審議のあり方についていただいたご意見、ご助言を十分に生かすことができませんでしたことについては、ご容赦を願うほかありません。

公大図協の会費については、議論の積み重ねを経て、従来年額30,000円から今年度より25,000円に引き下げ、5年経過ののちにその継続の有無をあらためて検討することが、昨年度決定されました。ところが、コロナ禍により諸活動が大きく制約されることとなり、繰越金を増加させないことも勘案して、今年度は会費を徴収しないことを提案し、総会で承認していただきました。こうしたなかでも、前に記しましたように、オンラインを用いるなど工夫をして諸活動がなされたことが報告されています。

大阪府立大学・国際教養大学の提案によって設置が準備されている改革小委員会については、会の構成と活動の進め方が提示されました。今後、本格的な活動が始められるものと思います。

この1年、大学図書館の運営においては、これまでにない対応が迫られてきました。地域により状況の異なる場所もあったかもしれませんが、入館者数や席数を制限するなどの感染防止対策を講じながらの運営が求められる一方、オンラインデータの利用率は増大したかと思えます。電子的な資料・データの作成、保存、また公開は、近時促進されてきたところですが、その需要や重要性ははからずも急速に増大したということになるでしょう。また、大学の授業でも、急遽、オンラインの方法が用いられるようになったなか、図書館がどのように大学教育と連携すべきか、連携できるかも課題となっています。関係諸団体ですでに議論、対応がすすめられているところでもありますが、このような面での情報共有、相互協力においても公大図協の果たす役割が大きくなっていくものと考えます。

さまざまな課題を残しながら次期にお渡しすることになり、会長として心苦しい限りではありますが、加盟館の皆様におかれましては、今後とも引き続き公大図協の活動にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年3月

公立大学協会図書館協議会
会長 都留文科大学附属図書館長
佐藤明浩